

シイタケ菌打ちイベント・報告

山本 隆造

2月24日(土)シイタケ菌打ちイベントが開催されました。厳しかった今年の寒さも一段落し、当日は素晴らしい天候に恵まれました。子供21名と保護者16名、計37名の参加を得、会員40名がスタッフとして対応しました。



鈴木会長の「みなさん、スタッフのおじさん、おばさんたちとたくさんお話をして、楽しい一日にしましょう」との開会挨拶でスタートです。記念撮影を済ませ、シイタケ菌打ちとコナラの植樹、2班に分かれて山に入ります。

シイタケ菌打ちは、スタッフがあげたホダ木の穴に、シイタケ菌を培養した駒菌を差し込み、木槌で打ち込む作業です。見るもの触れるものすべてが初めての体験に、子どもたちの夢中の姿とワクワク感が伝わります。シイタケのウンチク話には保護者の方々も興味津津です。



コナラの植樹は、ならやまの経団連皆伐地区にどんぐりから育てた3年目の苗を、腐葉土と真砂土で植え付けます。支柱で苗を固定し、名前を書いたプレートを取り付けて完成です。傍らで見ていた幼い妹が「〇〇ちゃんもやりたーい」とお母さんにおねだり。心優しいスタッフは「〇〇ちゃんも植えるうー?」「うん」と満面の笑み。時間いっぱいまでもう一本植樹のお手伝い。後半の組では苗木が不足し、急きょ苗床から運搬なんてことも。



昼食ではならやま名物の「豚汁」が振る舞われ、みなさんおいしいおいしいと大好評です。

午後の部は遊びの森での山遊びと立木の伐採。山遊びは事前に準備した、丸太渡り(ロープ有り・無し)、木登り、ハシゴ登り、ブランコ、ミラーウォークなどに加え、子供たちが自発的に考え出した「ダルマ木落とし」(切株の上に丸太のスライスを積み上げ、3m程の所から木片を投げ命中させて落とす)と丸太渡りの「ロープを揺らす」なども人気でした。子供たちの発想は自然の中で大きく膨らみます。

立木の伐採は径3~5cm程のソゴゴを切って枝の処理をします。ほとんどの子供はノコギリやハサミを使うのは初めて。苦勞しながらも切れたとき「よう頑張った」と言うと、少しばかりの自信、達成感とテレが混じったような笑顔が可愛いです。

終了後アンケートを書いてもらい、シイタケが顔を出したホダ木のお土産を手に、今回のイベントも無事終えることができました。

事前の準備、当日のスタッフの皆さま、まだ寒さの残る中お疲れさまでした。